

令和 7 年度第 3 回廿日市市保健福祉審議会 児童福祉専門部会 会議録（要旨）

◎概要

開催日時	令和 7 年 1 1 月 4 日（火） 1 8 : 3 0 ~ 2 0 : 3 0
開催場所	山崎本社みんなのあいプラザ 1 階 多目的ホール
出席委員	西川部会長、山村副部会長、大賀委員、石川委員、眞部委員、松浦委員、宮武委員、田畑委員、絹川委員、早川委員、内野委員、満井委員、堀川委員、平野委員
欠席委員	空田委員、谷口委員
オブザーバー	今野、田中、三井
会議内容	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 子育て担当部長挨拶3 自己紹介4 議事 (1) 関係団体ヒアリングの報告について (2) こども若者ミーティングの報告について (3) 廿日市市こども計画の素案について4 閉会
配付資料	<ul style="list-style-type: none">・資料 1 団体ヒアリングの実施結果概要・資料 2 こども若者ミーティングニュースレター・資料 3 廿日市市こども計画素案

◎会議内容（要旨）

1. 開会

2. 子育て担当部長挨拶

3. 自己紹介

4. 議事

(1) 関係団体ヒアリングの報告について

事務局	(説明)
部会長	こども計画の中でこどもの居場所は重要なテーマだと思う。中学校以降や学校が終わった後の居場所などが団体からも課題として挙がっているが、居場所に関わっている委員からは何か意見や感想はあるか。
委員	私が行っている「こどもがつくるまち」という事業は小4～中3までを対象にしている。スポーツや学校の授業で満足しているこどもより、そこで力を発揮しづらいと感じているこどもが多く参加しており、事業が終わった後に交流できる場所がないというのが課題と感じている。以前、千葉県に住んでいた時、小学校中学年ぐらい高校生ぐらいまでが様々な過ごし方ができる施設があった。例えば、年齢にあった遊具があったり、ゲームをしてもいい場所があったり、バンド活動ができた。新たに施設を作るというよりは、市民センターにちょっとした過ごせる場所があるだけでもいいと思う。
部会長	目的がなくても使える場所が求められているということは団体ヒアリングの結果からも読み取れた。中学生や高校生と関わりのある委員の意見も聞きたい。
委員	大学1年生になる娘がいる。中高は部活に励みながら、面倒なことや人間関係もうまく調整しながら頑張っていたようである。たまたま自分の娘はうまくいっているが、うまく、はまらなかったこどもは、不登校やスマホ依存につながることもあり、実際にうまくいっていた家庭がちょっとした部活のいざこざでうまくいなくなるケースも見てきた。居場所を作ったとして、そこに、はまらないこどもは必ずいるとは思いますが、作っていくしかない。
部会長	委員が言われるように、こどもの居場所と不登校とスマホ依存については関連があると思われる。不登校の現状やこどもの居場所などについて、学校教育課や生涯学習課に伺いたい。
学校教育課長	不登校の問題は非常に多岐にわたる。年間30日以上欠席した児童生徒を不登校児童生徒として数えていくが、その数は年々増えている状況である。コロナ禍以降、学校に行くということよりも、こどもの状況やタイミングに合わせてという考え方が広がっているということもあるが、こども取り巻く環境は複雑化しており、ストレスの要因も多様化している。学校としては、不登校児童生徒数は少ない方がもちろんいいが、

	<p>こどもとのつながりを切らないようにすることを大切にしている。学校との繋がりだけでなく、不登校のこどもが通える子ども相談室とのつながり、民間フリースクールなどとのつながりをこどもに合わせて、機を逃さないように作っていくことが大事だと考えている。心の健康観察というアプリを活用して、オンラインで学校の先生とつながることができる取組も行っている。つながりが切れないようにしていれば、義務教育期間にプラスにならなかったとしても、深刻化を防げるかもしれないし、卒業以降につながりが活きることもあると考えている。</p>
部会長	<p>廿日市市の不登校の現状は過去と比べてどうなのか、他市町と比べてどうなのか教えていただきたい。</p>
学校教育課	<p>今、明確な数字は持ち合わせていないが、年々、不登校児童生徒数は増えている。今までは、全国や県と比較して増え方が大きかったが、今は落ち着いてきて、横ばいに近い形である。また、30日のラインぎりぎりのこどもと欠席が長期化しているこどもが多く、グラフにするとフタコブラクダのようになり、二極化している状況にあるが、国や県と全く違う傾向ということではない。</p>
生涯学習課	<p>生涯学習課では、放課後子ども教室等を通じてこどもの居場所づくりに取り組んでいる。地域住民を巻き込んでこどもが様々な体験ができるようにと取り組んでおり、学習支援やスポーツ活動などを行っている。</p>
まちづくり支援課	<p>先ほど市民センターでの居場所の話があったが、市民センターでは誰でも利用できる場所としてロビーがあり、施設によって難しいところもあるが、可能な限り、机や椅子を置いて自由に過ごせる空間としている。テスト期間は中高生がよく勉強しに来るので、予約が入っていない部屋を開放するなどの取組を行っている。</p>
部会長	<p>廿日市市の現状について教えていただいた。団体からあがった意見はこども計画につなげていく必要がある。こどもたちが目的がなくとも過ごせる居場所を増やしていく必要があると思うが、取り組むにあたっては、具体的な数値目標を示したほうがいいと思う。</p>

(2) こども若者ミーティングの報告について

事務局	(説明)
西川部会長	<p>実際、参加された学生さんにどうだったか聞かせてほしい。</p>
オブザーバー	<p>3班で仕事・活躍のことについて話をした。実際に参加してみて、自分の意見を市に伝える機会があったのがうれしかったし、学校以外の人たちの意見を聞けるというのはいい経験となった。</p>
部会長	<p>同世代の人と話して市の未来について話せるというのはいい経験だったと思う。事務局からなかなか人が集まらないという相談を受けていたが、事務局からどんな苦労があったかやこうした方がよかったという感想などを教えていただけないか。</p>
事務局	<p>部会長に市と関係のある方をご紹介いただいたり、実際に学校等にも</p>

	<p>足を運んでチラシを配ったり、LINE でも発信をしたが、なかなか難しい状況だった。ワークショップの最後にアンケートで人数を集めるためのアイデアを募ったところ、個々ではなくグループ単位での声掛けや関係ある人からの直接の声掛けなどが効果的という声が上がっていた。また、中身が分かりづらく、楽しそうなイメージが伝わりづらかったのではないかと感じている。</p>
部会長	<p>委員から、集客などについて、感想やアドバイス等をいただけないか。</p>
委員	<p>事務局から依頼を受けて、関わっている子どもや保護者の方に投げかけてみたが、チラシでは具体的にどんなことをするのかわからないという声が上がっていた。次のミーティングでもチラシを作られると思うが、これまでの意見や会の様子を記載したら分かりやすいと思う。私もニュースレターを見て、理解することができた。</p>
委員	<p>小学4年生の子どもが参加する場合、ゆめタウンでの開催だと親が連れてくることになると思う。親が行けないと参加することができない。例えば、学校から代表を選んで参加してもらうというのは難しいのか。</p>
学校教育課	<p>学校の代表ということになると、見通しをもって準備をして取り組む必要がある。平日なら授業や行事との兼ね合いもあるので簡単ではない。子ども議会は夏休みにやっていて、中学生なので夜に集まったりすることもある。</p>
委員	<p>単純に、子どもにとって参加するメリットが感じられないのだと思う。例えば、ハードルは高いとは思いますが、これに参加したら夏休みの宿題が一部なくなるなど、何かメリットとして感じられるような独自の取組があれば、盛り上がるのではないか。こどもの間で口コミで広がってくようなことができればいいと思う。</p>
部会長	<p>何かのイベントと合わせて実施することも考えられると思う。例えば、e スポーツはすごく人気なので、集客になると思う。また、会場から近い子どもだけ参加できるというのも公平性を考えると疑問が残るので、いろんなエリアで開催して意見を聞けたらいいと思う。</p>
委員	<p>部会長が言われるように、今のこどもはゲームが好きなので、ゲームができますというような切り口で集客さえできれば、色々なアイデアが出ると思う。「こども若者ミーティングします」だけでは硬い印象があり、行きたくないと感じると思う。こどもは好きなことへの集中力はすごいので、予算などもあると思うので簡単ではないと思うが、有名な方を招くなど集客につながる何かがあればいいと思う。また、別のことにつられて来て、伝えた意見だったとしても、自分の意見で変わったという実感があればモチベーションを感じられると思う。私たちがやったことでこどもがモチベーションを感じられればいいことだと思うので、一緒に頑張れたらいいと思う。</p>
委員	<p>なぜ参加したかといったことは確認しているのか。</p>
事務局	<p>参加動機は、参加者に対するアンケートで確認している。</p>
委員	<p>6年生の社会の教科書で、市民の意見で政治が変わるという部分があ</p>

	る。自分の意見が市に反映されたという実感を得られることが重要だと思うので、学校の教員が内容を理解して、こどもへ紹介し、あなたの意見でまちが変わるかもしれないよという話ができるればいいのではないかと思う。
部会長	大きなことだけでなく、小さなことでも自分の意見が反映されたという実感があればよいと思う。年に1回でもいいので、こういった取組と学校の授業とが連動できればいいのではないかと思う。

(3) 廿日市市こども計画の素案について

事務局	(説明)
委員	27ページの重点施策3について、18歳を境に支援が途切れることが課題で、支援が途切れることなく円滑に移行できる体制を構築するという記載があるが、具体的にどのような体制なのか。ライフステージを通じて切れ目なく支援するという表現が出てくるが、どういう施設がどういうふうに繋ぎとなるのかということが具体的に書いてあれば、よりよいと思う。
委員	意見を聴いたり、やりたいことを実現させるという要素と金銭的なことを中心とした困りごとを解決する要素の2つがあると思う。この計画は、みんなが幸せに不安なく暮らせる社会という大きな目標に向けて廿日市市が何をやっていくのか示す計画だと思う。ターゲットとなるこども若者に向けて、わかりやすい具体的なイメージを持ってもらえるようにしていくことが重要だと思う。計画として漏れはないと思うが、どう計画を周知し理解してもらうのかといったことが書かれていない。市民に向けて、何をしようとしている計画なのかがわかるものがあればいいなと思う。
委員	活用できる施策がこんなにあるのかと改めて感じたが、自分はどれが活用できるのか、どこに相談にいけばいいかは市民には理解しづらいと感じた。例えば、ネウボラという言葉は一般の方にはイメージしづらい。実際に活用している人を見て知るということもあるので、こういうこともあるんだよというのを知ることのできるコミュニティやロコミの仕組みがあればみんなに伝わりやすいと思う。活用しやすいこと、必要な人に届くことが重要だと思う。
委員	重点施策について、市の一番の課題と思われるものをあげていると思う。重点施策2～3については基本方針に出てくるが、1は基本方針としては出てこない。事業計画の中についても、取組が1つ掲載されているだけである。重点施策を明確にして、体系図は色を変えるなど、位置づけをわかりやすくした方がいいと思う。
オブザーバー	27ページにあるこどもの意見表明の機会づくりは具体的にどのようなことをするのかと、37ページにある妊婦検診の受診を促すというのもどんなことをするのか気になった。妊婦検診の受診促進について

	<p>は、保護者が第2子第3子を産もうとする際のサービスを考えてもいいのではないかと思った。こどもを連れてバスなどで妊婦健診に行くのが大変と親に聞いたことがあり、難しいかもしれないが、タクシー券を配布したり、専用のバスがあったらいいなと思った。</p> <p>43ページの体験活動の充実について、スポーツ・文化芸術活動の充実というのがあるが、先日ビブリオバトルを見に行った時に、おとなしそうな方が自分の好きな本について、いきいきとプレゼンテーションをしているのを見た。こども若者が意見を表明しにくい環境があると思うが、小学生などのうちから、例えば授業の一環などで、おすすめの本を紹介するなど、自分の意見を表明する機会をつくることが重要だと思った。</p>
オブザーバー	<p>こういう取組があるというのをこの場で初めて知ったこともある。この計画がこどもや若者にも伝わるようなものになればいいのかなと思う。ゲームの広告とかでも周知できると思う。48ページのヤングケアラーについては、学校や家庭以外にも第3の居場所などがあっていいと思う。ひとり親世帯が周りにも結構いるが、同様に、居場所があったらいいと思う。</p>
オブザーバー	<p>56ページの若者のチャレンジを応援するしくみづくりについて、いいなと思った。ボランティアの案内は学校にも多く届き参加しやすいが、何かを一からチャレンジしたいと思った時に市に相談しに行くのは私にはハードルが高い。学校と市が連携して、サポートしてくれたら心強いと思いました。</p>
委員	<p>51ページの誰もが利用しやすい地域公共交通ネットワークの構築について、私のこどもが福岡に少し住んでいたが、福岡と比べて廿日市はバスが発達していなくて地下鉄もなく住みにくいと言われたことがある。若い人が住みやすいまちになればいいと思う。また、計画の中には難しい単語があるので、わかりやすくなればいいと感じた。</p>
委員	<p>この計画が誰に向けてつくるのかということを意識してはどうかと思う。一般の人は、この計画書は読まないと思う。計画は計画でしっかり作らないといけないと思うが、市民向けに発信する時には、どういう形でどういう表現で発信していくかを考えていく必要があると思う。</p> <p>最近、25歳前後の若者が家に帰ってきて、ひきこもっているというケースをよく聞く。特に男性が多い。そういった方の支援がこれから必要になってくると思う。また、最近、脳の機能ではなく育つ環境や生活習慣などで自閉症のような症状があらわれているのではないかというケースも増えている。この子は自閉症、という見方をするのではなく、環境による要因も考えていくことも重要だと思っている。</p>
委員	<p>こども計画なので、こどもにもわかるように漫画にしたりできないかと思う。漫画にして図書室においておくなどして数人でも読んでもらえたら、そこから興味を持ってくれる子も出てくるのではないかと思う。計画をどう伝えるかが重要なことだと感じる。</p>

委員	<p>この計画の中で保護者はどこに出てくるのか気になった。例えば、仕事と子育ての両立はこどもが大きくなってもついてまわることで、どこに相談したらいいのか気になった。また、PTAは各学校によって状況は異なっており、役員をそもそも募らないところも出てきた。保護者同士のつながりはひとつの大きな課題となっているなかで、この計画での保護者の位置づけや役割について、しっかり認識していく必要があると思う。</p> <p>体験については、こども本人が選べるくらい多く選択肢があった方がいい。コミュニティ・スクールや地域の力をかりながら、地域ごとの体験ができたらいと思う。</p>
委員	<p>計画の膨大な情報をどう市民に伝えていくかというのが重要だと思う。保護者目線で見ても、これを見て何が言いたいのか、何が重要なのか、自分にとって何が必要なのかというところがわかりにくい。こどもが見てもわかりにくいと思う。教育の関係者だったり、一般家庭の保護者、こども、若者など立場によって求める情報は違うので、ターゲットに対して必要な情報をどう届けるかというのが今後の課題とを感じる。</p>
委員	<p>私のような民生委員児童委員の立場であればこの計画の大体は理解できるが、保護者にとってはわかりにくいとは思う。</p> <p>46ページに外国人住民への支援とあるが、廿日市市では保健師などが熱心に関わっていると思うが、市だけでなく雇用している事業主とも連携し、親子の状況を把握できるような体制をつくってはどうかと思う。また、今の若い人は市の母子手帳アプリなどを活用して、情報入手をしている。以前より情報発信は充実しており、廿日市市は特に子育て支援が充実していて誇りに思う。私の近くにも廿日市市の子育て支援に惹かれて転入してきた人がある。</p>
委員	<p>私の近くにも廿日市市は子育てに手厚いから転入してきたという人がいるのですごくいいことだと思う。計画に書いているすべてのことが叶ったらすごくいいことだと思うので、計画倒れにならないよう、声をあげた人だけでなく、知らない人や声を上げにくい人などにきちんと情報を届けることが重要だと思う。こどもに関わるものとして、何か相談を受けた時に「市のどこに相談したらいいよ」というようなことが言えるように、しっかりと理解したいと思う。</p>
委員	<p>重点施策の2のところに、新たにこども・若者の居場所の充実が追加されており、中身を見ると、今から新たにやるのではなくこれまであったことを強化していくということとなっていて、58～61ページにまとめられているが、どこに行ったらいいのかわかりづらいと感じた。特に若者の居場所について興味をもっているが、大学や社会人経験をしているなかでどういう居場所が求められるかという、先ほど学生からこども若者ミーティングに参加してよかったと感想が出ていたが、ミーティングのような場所で交流できたり役割を持てたりすることが重要だと思う。自分自身が社会に役立っていると思えること、こども自身で</p>

	<p>考えるといった機会が増えるといいのかなと思う。こどもの時にどんな場所で自分が役立ってきたか、必要とされたと思えてきたかというのが重要だと感じる。「充実」とあるように、どのように充実させていくかが重要だと思った。</p>
部会長	<p>この計画をどう伝えるかというのが重要だと思う。「はついく」を確認したが、中学生以降の取組が少ないと感じたので、居場所の情報を増やすなど、中学生以上が見てもいいサイトとしてほしい。56ページに若者向けの施策がたくさんあるが、こういった取組をやっているということを Instagram などの SNS を使って発信した方が、若者へ届くと思う。また、若者支援に関する数値目標が少ないと感じた。特に、居場所づくりや体験活動、こどもの意見反映については必ず数値目標をいれていただきたい。</p> <p>最後に、33ページに地域と小中高と連携した避難訓練を取組として記載している。いつ南海トラフがあるか分からないので、待ったなしの問題だと思う。教育委員会には、ぜひ連携して取り組んでいただきたい。</p>

5. 閉会